



円勝会便り

6月号

配信：社会福祉法人 円勝会

TEL：0791-63-3053

HP：https://enshoukai.com

近畿地方の梅雨入りは平年であれば6月6日頃ですが、今年は平年より遅い予想で、6月中旬頃に梅雨入りとなるようです。天気によっては寒暖差が激しく、体調を崩しやすい時期でもありますので、体調管理には十分注意していきましょう。

さて、5月15日時点の就職内定率は78.1%で、昨年と比べると6.0ポイントアップしました。（リクルート調べ）3月から就職活動を行っている方は、採用試験を受験し内定をいただいた方も多いのではないのでしょうか。

円勝会では、就職説明会や施設見学会などを継続して行っており、採用試験の応募も受け付けておりますので、採用について分からないことなどがあれば気軽にお問い合わせください。

今月は、少子高齢化に対応するために国が進める政策の柱『地域包括ケアシステム』について解説します。

地域包括ケアシステムとは

可能な限り住み慣れた地域や自宅で日常生活を送ることを望む人は多く、地域内で介護が必要な高齢者や精神障害者を効率良くサポートするためには、家族のメンバーや地域の医療機関、介護の人材が連携し合い、状況に応じて助け合う必要があります。

そこで、戦後のベビーブームで生まれた世代、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上を迎える2025年をめぐりに、地域における「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の5つのサービスを一体的に提供できるケア体制を構築しようというのが、地域包括ケアシステムです。

原則として、中学校の学区を「日常生活圏域」として位置付け、主に高齢者の介護（予防）や医療、リハビリテーションや住まいなど健康に関わる安心・安全なサービスを日常生活圏域で提供し、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるようにすることを目的としています。

地域包括ケアシステムのイメージ



地域包括ケアシステムの背景

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

65歳以上の人口は、現在3,600万人（人口の28.9%）を超えており、2040年の約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

2005（平成17）年の介護保険法改正で「地域包括ケアシステム」という用語が初めて使われ、少子高齢化の進行が引き起こすと予想される問題を緩和するために、地域住民の介護や医療に関する相談窓口「地域包括支援センター」の創設が打ち出されました。2011（平成23）年の同法改正（施行は2012年4月から）には、条文中に「自治体が地域包括ケアシステム推進の義務を担う」と明記され、システムの構築が義務化されました。

地域包括ケアシステムの姿

地域包括ケアシステムは前述したように、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を一体的に提供します。

《住まい》

地域包括ケアシステムの「住まい」とは自宅やサービス付き高齢者向け住宅等を指し、ここで生活を送ります。



《医療》

医療は、急性期病院、亜急性期・回復期リハビリ病院の他、かかりつけ医や地域の連携病院を指します。病気になった際の入院などを急性期病院等が担い、日常の医療をかかりつけ医や地域の連携病院が担うという想定になります。

《介護》

介護は、在宅系サービスと施設・居住系サービスに分類されます。

在宅系サービスでは訪問介護、訪問看護、通所介護、小規模多機能型居宅介護、短期入所生活介護、24時間対応の訪問サービス、複合型サービス（小規模多機能型居宅介護＋訪問看護）等を指し、施設・居住系サービスは介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、

特定施設入所者生活介護等を指します。介護が必要となった時に、自宅からの通所あるいは施設へ入所して介護を受けられるような体制を整えます。



《介護予防・生活支援》

介護予防・生活支援では、老人会、自治体、ボランティア、NPO法人等が主体となり、カフェやサロンの開催、配食＋見守り、安否確認、食材配達等を行います。いつまでも元気に暮らすための仕組みを作っていくものです。

また、介護予防サービスを積極的に活用し、要支援1あるいは要支援2の人も自宅で暮らしていけるような体制を整えています。



地域包括ケアシステムで重要な4つの『助』

地域包括ケアシステムを推進するにあたっては、下記の4つの「助」も重要になります。

《自助》

「高齢者自身が健康管理や介護予防に取り組み、自分で自分をケアする」という意味の言葉です。なお、地域包括ケアシステムでは、家族による対応や市場サービスの購入、介護保険や医療保険の自己負担も自助の一環とされます。

《互助》

家族や近隣住民、友人らと相互に支え合い、問題を解決することを指します。ボランティア活動や住民組織の活動も互助にあたります。公的制度ではないので、互助による費用負担を保障する制度はありません。

《共助》

医療保険、年金、介護保険、社会保険などのように、制度化された相互扶助が共助にあたります。

《公助》

生活困難者を救済するための行政サービスを指します。公助は税金で成り立っており、高齢者福祉事業、生活困窮者への生活保護、人権擁護、虐待対策などの取り組みが行われます。



地域包括ケアシステムに関する事業運営

円勝会では、西宮市から委託を受け、シルバーコースト甲子園で地域包括支援センターを運営しており、介護保険サービスや行政、医療機関などの垣根を超えて、必要な制度やサービスの紹介をおこなったり、要介護認定で「要支援」と判定された人や、要支援・要介護状態になる可能性が高い人に、自宅で介護予防のためのサービスを適切に利用できるよう、ケアプラン（介護予防サービス計画）の作成や、サービス事業所との連絡・調整などをおこなっています。

また、入所施設である介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）だけではなく、サービス付き高齢者向け住宅などの「住まい」の機能を持つ施設の運営や、在宅系サービスである小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、通所介護（デイサービス）、訪問介護（ホームヘルプサービス）などの事業も運営しています。



"Topic"



5月1日 西はりまりハビリテーションセンターにて
移動販売会を施設内で行い、自分で好きな衣類や
雑貨などを選んで買っていただきました。



5月20日 大阪市森ノ宮にて
木下大サーカスからご招待をいただき、ドリーム
甲子園伊丹事業所の皆さんが、スーパーミラクルイ
リュージョンを観に行かれました。

猛獣ショーや空中ブランコ、オートバイショーな
どとても迫力があり、楽しい時間を過ごすことがで
きました。



5月 第2 シルバーコースト甲子園にて

音楽ボランティアの『海』さんに来ていただき、デイサービスにて演奏会を開催しました。

コロナ禍で施設に来ていただけない時も、CDを送って下さったりと関係が続いており、ご利用者のみなさんも毎回演奏会を楽しみにされています。



5月26日 三木総合防災公園陸上競技場にて

のじぎくスポーツ大会が開催され、西はりまりハビリテーションセンターとドリーム甲子園のご利用者が参加し、50・100m走や立ち幅跳び、フライングディスクなどの競技に出場されました。

○令和6年度 就職説明会・施設見学会・採用試験について○

【就職説明会・施設見学会】

6月は、就職説明会をWebにて毎週金曜日の14時から、施設見学会を毎週水曜日13時から行います。日程が合わない方は希望の日時をお教えいただければ、調整の上個別に対応させていただきます。

参加の申し込みやご不明な点等ございましたら気軽に問い合わせ先までご連絡ください。

※施設見学会は、新型コロナウイルスなどの感染症の状況によっては急遽中止させていただく場合があります。

【採用試験】 ☆積極採用中！

採用試験は、現地での選考のほか、感染防止や遠隔地の方向けのWeb選考でも受験できます。

採用試験を受験される方は、問い合わせ先までご連絡をお願いします。

●日 時：随時（2～3日希望日時をお聞きし対応させていただきます。）

●選考内容：面接 作文

●応募書類：履歴書 卒業見込証明書 成績証明書 健康診断書 作文（Web選考の場合）

●書類提出期限：採用試験の3日前までに郵送してください。送付先は改めてお伝えさせていただきます。

また、書類の準備が間に合わない場合は、問い合わせ先までご連絡ください。

※採用試験の日時や方法については、ご希望に添うよう調整させていただきます。

※Web選考で内定となった場合は、ご希望に応じて施設見学や職員との面談が可能です。



【問い合わせ先】

社会福祉法人円勝会 法人本部

〒679-4132 兵庫県たつの市誉田町福田 780-3

TEL:0791-63-3053 FAX:0791-63-3053

■E-mail：saiyou@enshoukai.com 担当：財津 前田

